

★ 心に残っている あのこと このこと ◆

愛する人が認知症になったとき、私たちは・・・

「おれんじカフェ」「小さなつどい」♡再出発♡



コロナウイルス感染防止のため休止していた「おれんじカフェ」と「小さなつどい」が、約2年の時を経て認知症の人と家族、そして支えてくれている地域の方々の参加で10月15日再出発した。二部構成で、コロナウイルス感染予防を徹底し、定員を上回る約60名がつどった。

一部は高知県南国市の小児科医・石本浩市医師と認知症の妻・弥生さんの10年間におよぶ闘病の日々と夫婦の深い絆をとらえたドキュメンタリー「妻の病ーレビー小体型認知症ー」の上映会。

2004年に統合失調症と診断された弥生さんはその3年後に若年性のレビー小体型認知症であることが判明。以降、医師ならではの観察眼で妻の日常を詳細に記録し続けてきた。夫とクリニックの業務の傍ら、自身も患っている鬱病、認知症により変わりゆく妻の姿とともに歩む姿が映し出された。病を経て絆を深めていく夫婦の姿を通して、愛する人や自分が認知症になった時に何が大切なのだろうか。



二部は、アルツハイマー型認知症を患う妻と、ありのままの命を見つめ、明滅する心の瞬間をとどめた俳句集「大花野」の著者、小山正見氏を迎えての講演会。

～ 「あなたのは」とばかり訊く妻 さくらんぼ ～

認知症を患った妻との生活の中で、繰り返し問いかけてきた言葉から「今まで私のことを気遣ってくれていたのか」と痛感する。

～ ここはどこ あなたはだあれ 大花野 ～

愛する人が認知症という病になったとき、私たちは何ができるのか。

認知症になると人間が壊れていくという考えがあるが、そうは思わない。「コミュニケーションの通路は狭まって、その人自身の世界が狭まっているわけじゃない」と小山氏は語る。

イベント最後は、大場理事長から映画を振り返り、認知症に向き合う上で早期診断の重要性、診断後は医療による治療だけでなく並行してケアも必要なこと。なにより地域とともに認知症の人や家族と歩んでいくことを話され、学生時代からの友人である小山氏とのトークセッションのような雰囲気閉会を迎えた。

介護統括部長 横堀 公隆

＜参加者のアンケートから＞

■これからの人生に役立つ大変すばらしい映画だった。軽い認知症の義母の介護の時は認知症に知識がなくもっと理解できていたらと反省しております。グループホームではお世話になり大変助けられました。感謝で一杯でした。「その人らしく」それぞれに違い、その人の心の中を深く知ることを痛感しました。ありがとうございました。
(匿名)

▼第一部の上映会を見せていただき夫婦の思いやり、助け合い、本当に大変なことだと思いました。第二部の小山先生の話。4つのお話素敵でした。最後に大場先生のお話でフォローして頂きよくわかりました。

(76歳女性)

アカシア川柳

ゴミ屋敷 訪問前から 覚悟いる

(相談ながし)

感染症 戦争状況 次は何

(林きりん)

憂きことを 語る海鼠なまこが 高級品

(海月のたっちゃん)

面会前 熱なし、せきなし 紙対応

(前歯銀)

旅気分 なぜか千葉から お取り寄せ

(前歯銀)

この便利 今の時だけ 孫子には

(日野市 近藤)

雨風が なんだかひどい 温暖化

(ならしのごん)

何食わぬ 顔で捨ててる プラボトル

(流山 イサミ)

狸さん 車は急に 止まらない

(相談ながし)

事業所 あれこれ

紹介 クリニックふれあい早稲田 往診担当 看護師：村野香保里さん



健和会の病院や診療所に勤務してから、当クリニックに。クリニックでは、月曜日から金曜日まで地域の往診をしています。

看護師は、患者さんの病状を連携する訪問看護などの事業所とあらかじめ情報のやりとりをしています。

「床ずれができたから見て欲しい」「今の薬だと思うように便がでない」「最近血圧が低め」などなどわかる範囲で把握していきます。

気管切開や、胃ろうや、膀胱の管などの交換の補助も行います。よろしくお願ひします。

2023年アカシア会カレンダー

三郷の画家たち



江戸川の堤 幾度ここを歩いたことか

私達の描いた絵

作品の提供 三郷市美術協会有志の皆さん

「初夏の江戸川堤」有馬 歌介

アカシア会では、10数年前からカレンダーを作成し、患者さんや利用者さん、関係機関の事業所に配布し喜ばれ活用されています。カレンダーには毎年テーマを決めて掲載しています。例えば、利用者さんの作品、四季の花、周辺の公園でのスナップ写真などです。

2023年のカレンダーテーマが、三郷市美術協会有志の皆さんの絵画「三郷の画家たち」です。素晴らしい絵が毎月のカレンダーを彩ってくれています。ただ今配布中です。クリニックや各事業所にあります。

<  time ~私の楽しみ~ >



読書は私の心の栄養剤

私のたのしみ・・・と聞かれてもこれ！といった趣味もなく。このお話を頂いた時には一瞬時間が止まりました(笑)。しばらく考え思い当たった事と言えば月並みですが「読書」です。

小説でもマンガでもとにかく毎日本を読んでいきます。本との出会いは小学校6年生の誕生日プレゼントに母がくれた「クレヨン王国の十二ヶ月」という児童書でした。

このクレヨン王国シリーズにとっても夢中になりました。おこづかいを貯めてシリーズを1冊買う事が楽しみでした。

その後、中学・高校と本と離れていた時期がありました。社会人になり通勤時間を利用して再び本を読む時間が出来ました。

小説でもマンガでも何度も同じ物を読みます。気に入ったシーンは先に進んでもまた戻り読み返します。

そんな私の今の(地味すぎる)楽しみは飽きる事なく何年も続けている湯船での読書です。何の音もなく集中して読める！これは入浴の時に限ります。これからのじき身体も芯まで温まるのでおすすめです。

本に出会わせてくれた母には感謝しています。



認知症対応型通所介護ふれあい倶楽部 サテライト事業所 和顔施

介護職員 後藤悦子

<編集者から一言>

私の娘も学生の頃湯船で本を読んでいました。入浴しながら眠りこけてしまったら大変なことになると親は冷や

冷やものでした。何度か注意しましたが聞き入れません。幸い大ごとにはならず今があります。そんなことが脳裏に浮かびました。眠りこけないようにくれぐれもご注意を。

とっておきの一枚

患者さん宅の庭で生まれた 180gぐらいの子猫をひきとって、今は元気に育っている猫です。「たら」ちゃんといいます。(川上)



〈ただ今、準備中〉

障がいのある方のグループホーム「こかげ」



三郷市早稲田に、障がい者グループホーム「こかげ」の開設(令和5年2月予定)準備をしています。

障がいのある人が地域でその人らしく「暮らす」ことを支援することを理念に共同住居を運営していきます。

様々な選択肢を許容し、ライフスタイルに応じた暮らしを支えます。自分の「暮らし」は自分で決める事が出来るように、自己決定、自己選択の支援をします。

自らがその状況を変える力が持てるような援助を基本としたいと思っています。『人が回復するのに締め切りはない』と夏苺郁子さん(精神科医「人は人を浴びて人になる」など著書あり)の言葉を胸に地域に根ざした活動を行います。

皆さまお気軽に見学などに来てください。どうぞ宜しくお願いいたします。(問い合わせ 048-951-1861)

グループホーム「こかげ」が大切にすること。

利用者が主体のホームにすること。

ご家族の利用相談も出来ること。

地域との交流を大切にすること。

【編集あれや これや】

アカシア通信には、はじめて川柳を掲載しました。川柳は「サラリーマン」「シルバー」「介護応援」「育児」などを題材した川柳公募があり、親しまれています。世相を色濃く反映したり、家族や友人、同僚などとの関係をパンチや洒落を聞かせた川柳は、ほっこりしたり同感をさせられます。ひと時、心がうるおされます。そんな川柳を時々掲載していきたいと思います。

コロナの感染がまた拡大しているという報道もあり、インフルエンザの時期と重なるため不安です。油断大敵です。感染予防の基本を守りながら日々を過ごしましょう。(Na)